



若竹会(多機能事業所すきっぶ)スタッフ



若竹会・小林さん

清掃ボランティアで 人の役に立ちたい

ボランティア魂 第1回



社会福祉法人「若竹会」(宮古市)

●障がい者施設も被災

沿岸部の障がい者入所施設の中には全壊してしまったところもあり、そのために家族の元に帰ることとなった障がい者も多かった。また、事業所で作業をしていた入所者が失業した例も多くあった。

こうした中、被災して失業するなどした障がい者を、被害を受けた商店や民家の泥かきなどのボランティアとして活躍に導いた団体がある。宮古市や山田町などで障がい者の就職・生活支援を行っている社会福祉法人若竹会だ。若竹会の小林和信さんに聞いた。

●清掃ボランティアの要望が

小林さんは、「何が出来るか分かりませんでしたが、職場体験させてもらった事業所さんに声をかけてみたところ、いろいろな要望が出されました。」と語る。道路の側溝の泥かき清掃や畳上げの要望が出されたので、失業した障がい者に声をかけて、震災の10日後から約20人のスタッフで宮古市内の高齢者の住宅や商店で清掃ボランティアを始めた。また、泥をかぶった食器を洗ったりするボランティアも始めた。

●充実感を持って取り組む

「震災後に解雇されて、職場再開のめどが立たないという人もありました。こうした中で、入所者が生活のリズムを崩さないようにするためにも、ボランティアに向いてもらおうと思いました。」と小林さん。「若竹会には、知的障がい、精神障がいの方が19人入所していました。スタッフが合わせて30人くらいで、朝の8時半から夕方3時まで清掃活動をしました。入所者には、人の役に立ちたいという思いがあったので、充実感を持ってやってくれました。」小林さんは喜ぶ。

●生活のリズムを取り戻す

清掃ボランティアに取り組んだ人は、「何もしないと、生活のリズムが乱れて落ち込んでしまいます。」「将来に不安はあるけど、何もしないより人のために体を動かす方が気持ちがいいです。」と話すという。「感謝の言葉をもらったりすると、励みになります。」と語る人もいる。

施設でのこれまでの作業訓練では、「腰が痛い。」「休もう。」となってしまう人も、清掃ボランティアのときは休み時間や終了時間が来るまで、もくもくとやってくれたと言う。

●入所者の責任感が強まる

メンバーは数日おきを集まり、ボランティア活動を続けた。「ボランティアは無理だろうなと思っていた人も、しっかり取り組んでくれたし、普段見れなかった責任感を発揮してくれた人もいました。何より仕事に対する責任感が強くなったように見えるので、清掃ボランティ

アは入所者の就職準備活動に役立っています。」と小林さんは目を細める。ボランティアを受けた事業所からも、熱心で真剣な作業態度に感心したという声も上がっている。

●就業意欲につながる

これまで若竹会として実施してきた就労作業の内容としては、公園清掃、ビジネスマナー、パソコン操作、客室清掃、飲食店の清掃、行政の事務作業などがある。施設では、このような準備作業に取り組み中で仕事への意欲を育て、事業所での体験実習などを通じて、雇用へ結び付けるという活動をしている。

「これからもボランティアを継続して、入所者がさらに、仕事への意欲を持ってもらえればいいです。」と小林さんは話す。



社会福祉法人若竹会 連絡先

住所：〒027-0075
宮古市和見町 8-33
TEL：0193-65-9200
FAX：0193-62-9800
E-Mail info@wakatakekai.or.jp
http://www.wakatakekai.or.jp/index.html